

資料（1）

令和3年度 学校評価結果及び成果と課題

<評価の基準>

4：十分達成している	3：おおむね達成している	2：どちらかという達成されていない
1：ほとんど達成されていない		

1 教職員による自己評価

- 各項目において「3」以上の評価となった。昨年の反省を生かした運営に高い自己評価がなされている。
- コロナウイルス感染症対策のため、研修やPTA活動への参加しにくさも感じながら、その分リモートなどでの参加に慣れもみられる。
- 項目（1）③「キャリア教育を重視し、職業・就労に関する意識の啓発や意欲及び働く力の育成を図る。」について、各学部課題と捉えている。キャリア教育を重視し、職業・就労に関する意識の啓発や意欲及び働く力の育成を図る。キャリア支援部と各学部でキャリア教育全体計画の確認と見直しを行う。
- 項目（1）⑤「個々の適性と希望に応じた進路選択を目指し、児童生徒及び幼稚部を含む保護者へのガイダンスに努める。」に関して、中学部・高等部で課題としている教員がいる。中学部、高等部で実施している進路学習や職場実習等での成果と課題から、どのような取組が必要かを検討し、学校全体で共有し、学部ごとに取組内容を検討する。

2 保護者アンケート

（幼稚部）

- 教育活動全般においては、ほぼ満足していただいているが、働く保護者が多く、保護者同伴の行事については検討が必要である。
- 「中庭に季節を感じられる木や草花がなく、季節感を感じられない。虫も探さないといないので、自然を身近に感じられる環境づくりをしてほしい。」という意見があった。事務室とも相談しながら検討していきたい。

（小学部）

- 全ての項目で高い評価をいただき、平均的には、保護者から良い評価が得られている。
- 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため直接交流ができなかったが、2学期以降少しずつ直接交流もできるようになった。居住地校交流の希望も今年度は増え、交流活動への保護者の期待も大きいと感じる。

（中学部）

- 全体的には高い評価点をいただいた。
- 進路に関する情報提供が不十分との指摘が少数あった。各担任や進路担当から情報発信をしているが、個別に行き届いていないところがあると思われる。
- 学校や寄宿舎のルールと家庭の方針との違いで、たびたび話題に上がる事例はあるが、その都度対応し納得していただいている。校舎内での履物について具体的な提案があった。学部及び分掌で検討に入った。

(高等部)

○おおむね高い評価をいただいている。

●生徒の学習状況、生活の様子、進路先や福祉の情報等、保護者の疑問や質問に対して日頃から対応できるようにしておきたい。

(分教室)

○概ね、高い評価である。

●新型コロナウイルス感染症の流行により直接交流ができない状況下では、オンラインでの交流を行うなど、今後も近隣の保育所や学校と協力し、工夫して交流を行う。

●施設設備の老朽化については、遊具の撤去等対策を行っているが、今後も安全管理を徹底し、施設等の美化に努める。

3 児童生徒アンケート（小学部5年生以上）による評価の結果について

(小学部)

○全ての項目で「3.0」以上の評価が得られ、児童が概ね満足していることが分かる。

●一部、1名のみ評価の低い項目がある。児童には、個に応じた分かりやすい言葉での説明や学習の手立てなどを工夫しているところではあるが、児童がきちんと理解しているかどうかの確認をしながら丁寧な対応を続けていきたい。また、相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、学習面生活面、進路など様々な話題を取り上げて積極的に話をしていきたい。

(中学部)

○概ね高い評価で、満足度は高い。自分についての評価で低い数値も見られるが、自己反省ができる学齢への成長とも捉えられる。

●生徒は、称賛の経験に比べて、課題を指摘されたことの印象が薄い。教師側は伝えている認識があるので、伝え方も含めて学部で議題にする。

(高等部)

○概ね高評価であった。生徒の悩みの相談やわかりやすい授業内容・方法について、より一層、丁寧な対応を行うようにする。

(分教室)

※対象者少数のため統計は行っていない。

資料（２） 令和３年度 長崎県立ろう学校 学校関係者評価報告

１ 評価の実施期日・場所

- ・ 期日 令和４年２月８日（火）

２ 学校関係者評価委員

委員氏名	職業	性別	年齢	学校評議員との兼務の有無	返信
山本 学	元諫早特別支援学校長	男	72歳	有	○
青田 優子	長崎県聴覚障害情報センター職員	女	28歳	有	○
高橋 明夫	前宮小路3丁目町内会長	男	74歳	有	○

３ 学校関係者評価の内容

（１）自己評価の結果について

- ・ 学校関係者からは以下の評価を受けた。

① 学校評価について	評価の平均値
1 学校評価は適切に行われている。	4
2 学校評価の結果から、成果と課題について分析が適切になされている。	4
3 学校の経営目標や評価項目は適切に設定されている。	4
4 保護者アンケートや児童生徒アンケートの結果から、分析が適切になされ、評価の低い項目についての対応が示されている。	4
② 学校運営について	評価の平均値
5 学校運営の改善に向けた実際の取組は適切になされている。	4

<評価の基準>

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

（２）具体的な御意見等

- ・ 県立高校受験、公務員合格は教育の成果。
- ・ コロナ禍で難しい面もあると思うが、個性の伸長のためにも交流ができると良い。
- ・ ろう学校のセンター的機能は今後ますます重要になる。小学校・中学校・高等学校へ就学・進学する子供たちは増える。どれだけフォローできるか。
- ・ 専門性の向上・伝承、外部専門家の活用、情報機器を活用した言語力の育成、卒後の生活を見据えた指導など、各部で教育の成果をあげている。
- ・ 本校、分教室とも保護者から情報提供の少なさの指摘がある。通知表をただ渡すだけでなく、毎学期の評価を保護者と一緒に行ってはどうか。目標をどこまで達成できたか、どこが課題かと一緒に考えることで、保護者から知りたい情報についての意見をもらえる。
- ・ 「学校があって、子供を集めて教育をしている」と思いがちだが、そうではない。「教育を必要としている子供達がいる、学校を作った。」そのために教員を集めた。子供が中心である事を忘れないように。
- ・ 教員と生徒と家族がしっかりと手を組んで取り組んでいるところが素晴らしい。
- ・ 以前は自動車関係に就職することが多く、就職した先に聴覚障害者のコミュニティーがあった。いつでも相談できる環境があった。
- ・ 最近、実態が多様化してきて、就職先も多岐にわたっている。就職先に相談できる環境がない。県内の各地区にはろうあ相談員がいる。聴覚障害者情報センターもある。いつでも相談できる。卒業して社会に出る前に、その存在を知らせておいてほしい。